

ITU-T SG15 副議長 (WTSA-16 選出 (再任)) 荒木 則幸氏 (NTT) に聞く

【読者のための豆知識】

SG15 (第15研究委員会)の活動内容：
光伝送網及びアクセス網基盤

専門領域：光ケーブル網の保守運用技術、光デバイスの研究開発、標準化
略歴： 1995年 上智大学大学院理工学研究科 電気電子工学専攻
博士前期課程修了
1995年 日本電信電話(株) 入社
同年 アクセス網研究所 光ファイバ試験技術・光デバイス研究
2006年 ITU-T SG6 参加、Q6/6 (光ケーブル網保守運用) ラポータ
2007年 IEC TC86 (ファイバオプティクス)参加
2012年 ITU-T SG15 副議長就任 (現在に至る)



— 先のWTSA-16での選出そしてご就任おめでとうございます。
今回、副議長に任命されたことについて率直なお気持ちは？

(荒木) 今回は再任ということもあり、前回ほど緊張していませんでしたが、無事任命されて安心しました。二期目であり、SG15 マネジメントの中での役割も大きくなることから、気を引き締めて取り組まなければと感じています。

— ご担当事項とご経歴、ITUとの係わり、その他の標準化機関での活動などを教えてください。

(荒木) 専門領域は光ファイバ・ケーブルで、2006年(当時はSG6:屋外設備)からラポータとして会合に参加しています。また、IEC TC86(ファイバオプティクス)にも参加し、両標準機関の連携を図っています。

— これから副議長として重責を担われるわけですが、次研究会期におけるご担当の研究委員会の最重要テーマ・課題はどのような事とお考えですか？

(荒木) フォーカスグループで議論されているIMT-2020の関連技術として、光アクセスシステムのMBH/MFHやネットワークのソフト化、低遅延化(同期)等の標準化について活発に議論されると予想します。

— 副議長としての抱負をお聞かせください。また、どのような点に力点を置いて活動される予定ですか？

(荒木) 現在は、主にWP2(光技術及び基盤設備)のマネジメントを担当していますが、他のWP(アクセス、トランスポートNW)においても日本技術の標準化を推進できるよう、マネジメントチーム内での情報共有や連携を心掛けたいと思います。

— 副議長としての難しさや壁(障壁)、そうしたことへの対処方法はどうお考えですか？

(荒木) SG 会合では技術に関する議論だけでなく、勧告作成プロセスや新規提案等についてマネジメントとしての意見を求められることが多々あります。こうした時に客観的な立場から適切に対処できるよう、ITU-TのルールブックであるAシリーズ勧告を熟読しておく必要があると思います。

— わが国、各加盟国の政府関係やICT産業界からの理解や協力が大変重要で必要なものだと思いますが、これについての期待をお聞かせください。

(荒木) SG15はITU-Tにおける最も活発で実産業界への影響力の大きいSGの1つと考えられます。物理層NWはIoTのような派手さはありませんが、IMT-2020を含め新たなサービスやアプリケーションを支える基盤設備ですので、引き続き日本政府及び企業の皆様のご支援、積極的な参加をいただければと思います。

— 個人的な信条とか、プライベートな時間でのご趣味などをお聞かせください。

(荒木) 標準化に限らず、さまざまな仕事を進める上で、やはり人と人との繋がりが重要だと思います。各国の参加者とも、まずは個人としての信頼関係を築くことが第一と考えます。

— このインタビューにお時間を割いていただき有難うございました。これからの一層のご活躍をお祈りしております。読者の方へのメッセージがあればお聞かせください。

(荒木) ITU-Tにおける国際標準化には、単に相互接続のためのインターフェース等の規格を作成することだけでなく、災害対応や途上国へのICT普及等の社会への貢献という役割もあり、これらの側面も意識して、日本として国際貢献できればと考えています。今後ともご支援の程よろしくお祈りいたします。